

研究計画書

〔大学院 通信教育課程〕

氏名		専攻分野		指導教員	
----	--	------	--	------	--

※指導教員と面談のうえ合意のもと、作成してください。

I 研究課題

II 研究課題に関する背景

(何故、上記の研究課題に取り組みたいのか、その背景について簡潔に記載してください。)

III 研究目的

(何をどこまで明らかにしようとしているか、研究の特色・独創的な点は何かについて簡潔に記載してください。)

IV 研究方法（概略）

(対象、研究のデザイン、評価方法など。臨床研究は、ヘルシンキ宣言に準拠すること。)

V 期待される研究成果

(どのような研究成果が期待されるか。研究の成果はどんな意義があるか等について簡潔に記載してください。)

研究計画書

〔大学院 通信教育課程〕

氏名	明治 一郎	専攻分野	健康予防鍼灸学	指導教員	廣 正基 教授
----	-------	------	---------	------	---------

I 研究課題

「主観的健康感と東洋医学的な健康評価及び他の評価との関連性に関する調査研究」

II 研究課題に関する背景

(何故、上記の研究課題に取り組みたいのか、その背景について簡潔に記載してください。)

近年、健康度を評価する場合、客観的な指標だけではなく、主観的な健康感が重視されている。一方、東洋医学の問診項目による健康評価は、いわゆる健康成人においては体質評価として利用されてきた。しかし、東洋医学の問診項目も全体的に心身の健康度を評価する指標になるものと考えられるが、そうしたことに関する研究は少ない。その点を他の評価指標と総合的に検討し、明らかにすることは、健康プログラムの開発にも有用であることからヘルスサイエンスの分野では価値があるものとする。

III 研究目的

(何をどこまで明らかにしようとしているか、研究の特色・独創的な点は何かについて簡潔に記載してください。)

【目的】東洋医学の問診項目は、心身全体の健康レベルを総合的に把握するのに適しているか否かを主観的健康感と他の健康指標とを総合的に解析することによって明らかにする。

【独創性】東洋医学の問診項目は、単に病証を判定するためのものではなく、健康レベルを評価することにおいても有用であることを明らかにする点にある。有用であるとすれば、健康プログラムの開発にも繋がる。

IV 研究方法（概略）

(対象、研究のデザイン、評価方法など。臨床研究は、ヘルシンキ宣言に準拠すること。)

【対象】成人男女 500 名程度

【方法】

(1) 調査は、下記の評価を行う。

①主観的健康感の評価

VAS により評価

②東洋医学的問診票

東洋医学の健康調査票 (OHQ57, MOS)

③自己評価疲労スケール (疲労度)

④GHQ-12(ストレス度)

(2) 解析方法

解析は、単純集計、クロス集計、多変量解析(重回帰分析、因子分析など)

V 期待される研究成果

(どのような研究成果が期待されるか。研究の成果はどんな意義があるか等について簡潔に記載してください。)

- (1) 東洋医学的な問診項目が、健康評価指標として使用できる。
- (2) 健康評価の分野において、新しい評価票として使用できるとともに個人に適した健康プログラムを作成する上でも有用となる。